



「2学期教育活動アンケート」の数値結果についてお知らせします

11月に実施した「教育活動アンケート」への御協力ありがとうございました。調査結果をまとめましたので御報告します。

【数値結果】全項目、4段階評価の最上位評価のみの割合で示しています。

	質問項目	対象	R4/12	順位	R5/7	順位	R5/11	順位
1	学校が楽しい	児童	65		63		60	
		保護者	57	③	57	③	58	③
2	みんなで何かするのは楽しい	児童	78	③	76	③	76	②
		保護者	65	①	64	②	68	①
3	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	児童			56	⑤	47	②
		保護者			21	①	22	①
4	授業に主体的に取り組んでいる	児童	53	②	56	⑤	51	
		保護者	35		32	④	33	
5	授業がよく分かる	児童	56	④	55	④	52	
		保護者	20	①	21	①	22	①
6	友達と関わりながら授業に参加している	児童	74		69		64	
		保護者	39		38		41	
7	先生や友達の話をしっかり聞いている	児童	76	⑥	71	⑥	70	⑥
		保護者	32		32	④	34	
8	先生や友達に自分の考えを伝えている	児童	60		54	②	47	②
		保護者	24	②	24	③	24	③
9	自分にはよいところがあります	児童	61		57		53	
		保護者	31	⑤	31		31	⑤
10	友達のよいところを知っている	児童	84	①	77	②	81	①
		保護者	46		46		48	
11	思いやりの気持ちをもって生活している	児童	68		64		62	
		保護者	47		48		50	
12	学校のきまりを守って生活している	児童	66		63		61	
		保護者	54	④	51	④	55	
13	体を動かすことが楽しい	児童	77	④	75	④	74	④
		保護者	61	②	65	①	63	
14	食べ物に興味を持って給食を食べている	児童	58	⑤	58		55	
		保護者	44		44		47	
15	安全に登下校できるように気を付けている	児童	79	②	79	①	75	③
		保護者	51	⑤	51	④	53	
16	学校や登下校中に地震が起きたとき、どのように行動すればよいか分かっている	児童	74		69		67	
		保護者	31	④	34		31	⑤
17	自分のよいところやがんばっていることを、先生はほめたり認めたりしてくれる	児童	63		65		61	
		保護者	46		42		50	
18	家庭学習に自分から取り組んでいる	児童	54	③	54	②	50	⑤
		保護者	29	③	33		29	④
19	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている	児童	61		61		53	
		保護者	38		38		36	
20	家の人と将来のことについて話すことがある	児童	52	①	52	①	49	④
		保護者	41		42		42	
21	学校に信頼できる先生がいる	児童	77	④	74	⑤	72	⑤
		保護者	44		41		43	

<順位欄>白丸数字は数値が高かった項目、黒丸数字は数値が低かった項目です。

※裏面に続きます

【分析考察】

①ステージ制により学校生活の充実を図る

【取組】

本校では昨年度より、年間を2～3か月ごとの5つのステージに区切り、ステージごとに目標を掲げて生活しています。



【成果と課題】

ステージごとの目標達成に向かって、意識して生活していることが、数値からも読み取れます。今後も「ステージ制」の充実を図っていきます。

(1)4～5月:であいステージ「新しい友達や先生のことをたくさん知ろう」

本年度から、北小スタディ(朝の15分学習)や学級活動の時間に、全校一斉に「人間関係づくりプログラム」に取り組み、友達のよさや新たな一面を見つける機会を増やしました。



○設問10「友達のよいところを知っている」の数値が最も高く、児童会スローガン「友達をもっともっと笑顔にしよう」を掲げる北小の最大のよさです。児童数980名、外国籍児童100名を超える多様な友達とかかわり、互いのよさを認め合う「共生共育」の学校づくりを今後も進めていきます。

(2)6～7月:つながりステージ「話している人の方を向いて反応しながら聞きます」

昨年度に引き続き、北小スタディの時間に、全校一斉に「聞くスキルトレーニング」に取り組みました。また、月1回の健康の日にも、人の思いを受け止める「傾聴」などに取り組んでいます。



○設問7「先生や友達の話をしっかり聞いている」の数値が高い水準を維持しています。袋井あやぐも学園では、「聞く姿勢」を最重点に掲げています。授業中に友達の考えをしっかりと聞くことで、自分の考えが広がったり深まったりして、学習内容が身に付いていくことを目指しています。

(3)8～10月:きょうりょくステージ「友達と励まし合ったり協力し合ったりして、運動会を成功させます」

運動会では「全員リレー」を競技種目とし、体育の授業や昼休み、学級活動で作戦を立てたり練習したりしました。また、「表現運動」では、ダンスプロジェクトが振り付けを考えたり、クラスメイトに教えたりしました。励まし合い協力し合う場を設定しました。



○設問2「みんなで何かするのは楽しい」、13「体を動かすことが楽しい」の数値が、児童・保護者・教員の3者ともに高くなっています。学校教育目標「夢いだき 共に高め合う子」～協働による学校文化の創造～の達成に向かい、教師主導で教育活動を展開するのではなく、できる限り児童主体で進め、力を発揮し成長していけるような場づくり、時間の保障に努めています。

(4)11～12月:ちょうせんステージ「意見を出し合い、つなげながら話し合います」

北小スタディの時間に、全校一斉に「話すスキルトレーニング」に取り組みました。授業の発表場面では、相手の意見を受け止めて、「〇〇さんと同じで」「つけ足して」「違って」というようにつなげて話すことを大切にしています。



▲設問8「先生や友達に自分の考えを伝えている」の数値が低く、昨年度より下がりました。正解が言えることだけがよいのではなく、自分の考えをもつことや、議論して考えを広げ深めることが大切です。話すスキルトレーニングで身に付けた力を、道徳科や学級活動の議論の場で発揮し、伝えることへの自信を高めていきます。

②学習内容の理解・定着を図る

【取組】

(1)学習のまとめと振り返りを書く

本年度は、授業のめあてや問題に対する「まとめ」(大事なポイント)を、できるだけ自分の言葉で書いたり、分かったことやまた疑問に思っていることなどを「振り返り」として書いたりする時間の確保を重点に取り組んできました。



【成果と課題】

▲設問4「授業に主体的に取り組んでいる」の数値が上がっていないことが課題です。今後も引き続き、学習の終わりに「まとめ」や「振り返り」の時間をとり、理解状況を自分自身で振り返り、「できた」「わかった」という実感や、内容理解につなげていきます。

(2)基礎学力向上を目指す朝学習

北小スタディでは、昨年度まで「国語」に限定して漢字などの基礎学力向上に取り組んできました。本年度は、「算数」を新たに増やし、「計算」などの基礎学力向上にも取り組んできました。



▲設問5「授業がよく分かる」の数値が下がっていることが課題です。1月の定着度調査では、全学年で漢字と計算領域は正答率が高いという結果が出ました。来年度は市内全小学校で、「ドリルパーク」という学習アプリがタブレット端末に導入されます。AI機能により、学習履歴に応じて苦手な問題には補充問題が提示されるようになります。

(3)自主学習の充実

高学年を中心に中学進学を見据えて、あらかじめテストの期日を知らせ、テストに向けた自主学習に取り組むことを奨励してきました。



▲設問18「家庭学習に自分から取り組んでいる」の数値が下がっていることが課題です。授業ノートや自主学習ノートをお手本として紹介する「まなびノートミュージアム」などを実施しました。また、自主学習ノートに「めあて」と「まとめ」を必ず書くことで、ねらいをもって取り組めるように働きかけています。

(4)教科担任制の導入

昨年度より、国語・算数以外の教科で、教科担任制を導入しています。学年内の担任と担任外の教員が担当教科を定め、複数学級を指導しています。専門教科による授業の充実と、学級担任による国語・算数の基礎の定着の両立を目指しています。



○設問21「学校に信頼できる先生がいる」の数値が高い水準を維持しています。袋井あやぐも学園では、挑戦・努力する姿を価値付ける「ボイスシャワー」を教師の共通実践に位置付けています。児童と教員、児童同士の信頼関係を築くことが、様々な面によい影響を与えていきます。教科担任制の導入により、学級担任だけでなく、より多くの教員が1つの学級にかかわることができます。学年4・5学級規模を生かし、教科担任制を学年担任の意識につなげていきたいと考えています。

【保護者からの御意見】多かった意見に集約して取り上げています。

①運動会について

(1)保護者応援席

【よかった:40】

シート等の場所取りがないので、朝早くから並ぶ必要もなく、競技開始時刻に来て子どもたちを近くで見ることができとてもよかった。優先観覧席などがあり各学年交代で場所を空けるなど見やすかった。

【改善:17】

保護者の観覧エリアを校庭1周にしてほしい。生徒席の真後ろから応援合戦などを楽しめるクラスと遠いクラスがあるのは不公平です。

【観覧マナー:19】

最前列の人が立ったままで後ろの人に配慮しない、区分けのコーンの前に出てしまう人が気になってしまいました。



○保護者優先観覧席

優先スペースを広げられるようにしたいと考えています。職員が手分けをして、学級指導と競技運営にあたっており、保護者応援席やトイレ等の様子まで目が行き届かない状況があります。放送で適宜呼びかけますが、保護者同士の譲り合いや声掛けもお願いします。

○児童応援席と周回コース

児童応援席の設定場所の関係上、周回コースにできなかったため、設定場所を見直して改善していきたいと思ひます。

○低学年リレーの応援

コースを縮めたり折り返しリレーにしたりすることがあります。競技によって児童と保護者の応援場所を近付けるなど、検討したいと思ひます。

(2)日程・保護者人数

【よかった:14】

・保護者2名参観となり、家族で子供の様子をみられたのでとてもよかった。
・北小は人数が多いので、保護者2人までという人数制限もよいと思ひました。そうでないと、優先席でもよく見えなくなりそうです。

【改善:8】

・今後は午前中のみの開催など、少しずつ負担軽減の流れになっていくと良いと思ひます。10月は祭典などの行事も多く、行事に追われて落ち着かないご家庭も多いと思ひます。
・2名制限のおかげで混雑しないのは良かったと思ひますが、家族で見に来たい方もいたのではと感じた。去年までの様に、2学年ごとの時間帯にして、人数制限無しという方法でも混雑緩和は可能かもしれない。



○日程・種目

4年ぶりに全校児童が一堂に会し、全学年の競技・演技を見たり応援したりすることを第一目的として、全校1日開催としました。

また、本校の教育目標である「ともに高め合う」「協働」の実現に向かい、学級対抗リレー・団体種目・表現運動の3種目を設定しました。

大規模校ならではの盛大さと一人一人が活躍できる場づくりを両立させていくため、本年度並みの14時終了を考えています。競技種目については、今後検討していきます。

○参観人数

運動場のスペースと保護者の絶対数の関係から、来年度も各家庭保護者2名でお願いしたいと考えています。

②参観会について

祖父母参観会

【よかった:16】

・祖父母参観会は、祖父母がとても喜んでいたので来年も実施いただけると嬉しいです。
・祖父母参観は、親の参観会より人が来てくださっていたくらいだと聞いて、関心の高さを感じた

【改善:18】

・祖父母参加会は、祖父母が高齢で参加できず、さみしい思いをする事があったり、遠くて参加できない場合もあったりすると思う。1日公開日に観てもらったちではだめなのかなと思った。
・祖父母参観はともえサポーターズの勧誘があるため行きにくいと祖母から言われてしまった。純粹に孫の参観ができる場であってほしい。



祖父母や地域の方にも学校を公開し、児童や学校の様子を見ていただきたいという趣旨で開催させていただきました。感染症が5類になりましたが、初めての企画で参観人数の予想がつかず、保護者の参観はご遠慮いただきました。

また、日頃、参観会や学校行事のボランティアをしてくださっているとえサポーターズからの発案で、説明のチラシを配付させていただきました。

9月はまだ大変暑く、さわやかアリーナ駐車場との行き来や廊下の移動など、熱中症の危険も懸念されました。

6月と11月の学校公開日において、保護者2名に加えて祖父母も対象とするなど、開催方法を検討していきたいと思います。

③その他

(1)遠足・社会科見学

コロナ禍で幼稚園、小学校低学年を過ごしたため、遠足を知りません。バス会社の撤退が相次ぎ、バス不足なのも重々理解しておりますが、できれば社会常識として、遠足と社会科見学は復活させてほしいのですが。



<現在実施している校外学習>

- (1年)エコパでの環境教育 ※市の事業
- (2年)図書館、駅、科学館の見学 電車・バスの利用
- (3年)警察署、消防署、工場の見学
※工場はリモート見学が主になってきています
- (4年)浄水場、グリーンセンターの見学
※受入不可のケースが出てきています
- (5年)自動車工場、港の見学 観音山自然体験
※見学日が抽選制となり、日程調整が難しい場合があります
- (6年)首都東京への修学旅行 久野城見学

バス代金が値上がりし、一人あたりの負担が大きくなっています。そのような中ですが、当該学年ならではの体験ができるように、学年費を有効に活用しながら、校外学習の実施を進めていきます。

(2)少人数指導

6年生だけ少人数指導がないので、3学期だけでもぜひ取り組んでいただきたい。



現在、本校では4年5学級を2グループに分けて、算数の授業で1名教員を増員して、少人数指導を実施しています。これは、国・県・市より加配教員が配当されて実施しているものです。

近年の流れとしては、1学級の在籍人数を40名から35名に減らす、中学進学を見据えて、高学年での教科専科指導を推進する方向に動いています。また、報道にもあるように、学校に配置される教員が不足する状況が出ています。

どのような条件で加配教員が配当されるかで、少人数指導や教科専科指導の体制が変わってくることを御了承いただきたいと思います。

(3)児童指導

・授業中に教室を出ている子が見受けられる。しっかり授業を受けている子の迷惑になるので、対策をしてほしい。

・不登校の児童に対して、臨機応変な対応を考えていただきたい。



様々な要因により、授業や集団生活に適応できない場合があります。不登校傾向の場合には、学習室で過ごしたり、リモートで授業を受けたりすることもできます。また、スクールカウンセラーや支援室などの相談窓口も紹介することができます。学校に御相談ください。

授業を受けられない児童には、支援員や担任外教員、管理職が主に対応しています。また、授業のサポートにつき場合もあります。保護者の方には、授業の参観やお子様のサポートをお願いすることがあります。また、感情のコントロールが難しくなった場合は、付き添いやお迎えをお願いする場合があります。御理解と御協力をお願いいたします。

貴重な御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。教育活動の改善に生かして参ります。